東奥日報社提供

東　奥　日　報
2023年（令和5年）11月15日（水曜日）（24）

季節外れ ニッコウキスゲ開花

八工大・田中教授 種差海岸で確認

三陸復興国立公園内にある八戸市の種差海岸天然芝生地で、初夏に咲くニッコウキスゲが今月中旬に開花したのを、八戸工業大学工学科生命環境科学コースの田中義幸教授（群集生態学）が見つけた。通常は草丈50～80センチ程度になるが、このニッコウキスゲは地面をはうように花をつけていた。田中教授は今後、環境条件との関係を調べる予定で「今年は気温の推移が例年と異なるのは確かであり、面白い成果になる可能性がある」と話している。

種差海岸の天然芝生地に咲いているニッコウキスゲ＝14日午後

田中教授は約2週間に1度、種差海岸芝生地約5千平方メートルの区域をドローンにより複数の高度から撮影。目視と合わせ、存在する植物の種類や時期、位置を記録している。今月10日朝、ドローンでの撮影後に海岸を歩いて調査していたところ、一輪のニッコウキスゲのつぼみを発見。翌11日に開花を確認した。

ニッコウキスゲは通常、5月ごろに咲き始め6月が最盛期となるが、11月に咲くのは極めて珍しいという。朝にひと花ずつ咲き、次の日にはしぼむ「一日花」とされるが、開花初日の11日から3日後の14日午後にも同じ花が咲いているのが確認された。

一帯は地下水がしみ出て湿地になっており「温かな地下水が影響した可能性もあると思う」と田中教授。「小さな出来事かもしれないが、皆さんが関心を持っていただくことが、豊かな自然を守ることにつながる。植生の変化を地道に調べる価値は高いと思う」と語った。

（岡田圭逸）

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」